

教科	科目	学年	単位数
公民	倫理	3年 (一貫探究文系、探究文系)	4
使用教科書		副教材	
『倫理』(東京書籍)		『テオリア』(第一学習社)	

1. 学習到達目標

- ①青年期における自己形成の課題について、現代の倫理的課題とともに理解と思索を深め、他者とともに生きる自己の在り方生き方について考える。
- ②先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、人間の存在や価値に関わる課題について思索し、人生観・世界観・価値観などを形成し、自己の人格形成に努める実践的態度を育成する。
- ③日本の伝統的な人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりの中で理解し、日本人としての在り方生き方について自覚を深める。
- ④現代の倫理的課題や生徒の当面する課題について、先哲の考え方を学びつつ、倫理的な見方や考え方を身に付け、主体的に課題を解決していくための能力や態度を養う。
- ⑤人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を涵養し、現代の倫理的課題を自己の課題と関連づけて探求し、論理的思考力や表現力を身に付けて、平和で民主的な社会の実現に寄与する態度を養う。

2. 評価

a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

- 年3回の定期テストでは、出題範囲に関する「知識・理解」「思考・判断・表現」の状況进行评估する。

3. 学習内容 (右ページ参照)

4. その他 (科目の特徴や学習の注意点など)

- どの思想家、哲学者、宗教家も、彼らが日常生活しながら感じた具体的な疑問が思考の発端になっているので、授業で扱う抽象的な概念と具体的な問題を往還できるよう、君たちも日常生活するなかで感じる疑問を大切にしたい。
- 必要に応じてSGTなどで、内容を発展・拡充する予定。

学期	月	試験	授業内容（教科書）	その他（到達目標・学習のポイントなど）
1 学 期	4	《定期試験》	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 第1章 人間の心のあり方 1節 人間とは何か 2節 青年期の課題と生き方	○人生における青年期の位置づけ、特徴などについて考え、青年期特有の課題であるモラトリアムとしての時期、アイデンティティの確立、自己実現の追求、自己理解の方法などについて学んでいく。 ○ギリシア思想は、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの生涯と思想、ヘレニズム時代の特徴と思想を中心に理解します。また、その思想がどのように発展したのかを学習する。 ○世界の三大宗教であるキリスト教、イスラーム、仏教の基本的な考え方だけでなく、歴史的な成立過程や、発展、拡大の経緯についても理解する。 ○儒家、老荘思想を中心に学習し、その後の中国思想の展開についても理解を深める。
	5		第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ 1節 哲学すること 2節 ギリシアの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術	
	6		第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開	
	7		○西洋の人間観と人間尊重の精神について、ルネサンス、宗教改革、合理的精神（ベーコンとデカルト）、モラリスト（モンテーニュとパスカル）、経験論と合理論の展開を学習する。 ○近代的な個人の自覚から、人間のあり方と社会との関係について、社会契約説（ホッブズ、ロック、ルソー）、カント、ヘーゲルの思想を理解して、考えを深める。 ○近代資本主義社会の問題とその克服について、功利主義、社会主義の思想を理解して、考えを深める。	
2 学 期	8	《中間試験》	3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然との関わり	○人間社会の変革の思想について、実証主義や進化論、プラグマティズムの思想を理解して、考えを深める。 ○人間や社会の在り方の急激な変化による近代的な理性への問いなおしとし、実存哲学、フランクフルト学派、構造主義など現代思想の人間観・言語観を理解する。 ○現代社会における公共性の問題について、アーレント、ハーバーマス、ロールズ、センの思想について学習し、個人とコミュニティの関係について考えを深める。 ○男女差別の解消や、フェミニズムやジェンダーの問題を考える。
	9		第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚	
	10		第2編 現代の諸課題と倫理 1節 生命 2節 自然 3節 科学技術 4節 福祉	
	11		○古代日本人のものの考え方を、精神風土との関係でとらえるとともに、宗教観・倫理観などについて考える。 ○外来思想である仏教の受容や日本的仏教の特色、仏教と日本人の思想形成との関わり、無常観・美意識・武士道などにおける特色をとらえる。○儒教の日本的展開について、日本の朱子学や陽明学、古学、古文辞学を中心に学習する。○国学の特色を理解して、本居宣長の思想を中心に学習する。○西洋文化との接触後、啓蒙思想、自由民権思想、国家意識、キリスト教思想などと日本人の思想形成について理解する。○近代の代表的な作家や文学者の思想を通して、日本人が自己の内的世界についてどのように思索したか、学習する。	
3 学 期	12	《期末試験》	5節 文化と宗教 6節 戦争と平和	○現代社会が抱える諸課題について、それぞれの節で掲げた観点からアクセルしながらも、それら諸問題に通底する人間という種の動物の特性（その限界と可能性）について理解を深める。
	1			
	2			
3 学 期	3			